

名前の表記についてのいろいろ-デザインを中心に
(2009年10月26日版)
Japanese Name Order and Expression in
Alphabeta Latina

達野 匠 (*TaQumi TuZino*)

*** 2009-9-28 起筆. TeX-PDF が本家. HTML は文字化け等不正確な表示になってゐるかもしれない.

目次

い. はじめに	1
ろ. 姓が先か名が先か.	2
は. いろいろなパターン	4
は. 1 Taqumi TuZino: ベタで表記	4
は. 2 TAQUMI TUZINO: 全部大文字	4
は. 3 Taqumi TUZINO: 姓を大文字	4
は. 4 Tuzino, Taqumi: 姓名を転置	5
は. 5 TUZINO, Taqumi: 姓を大文字にして転置	5
は. 6 Taqumi TUZINO: 姓をスモールキャピタルにする (一律)	5
は. 7 Taqumi TUZINO: 姓をスモールキャピタルに (もとの大文字を忠実に残す)	5
は. 8 TUZINO, Taqumi: スモールキャピタルにして転置 (一律)	5
は. 9 TUZINO, Taqumi: スモールキャピタルにして転置 (忠実)	5
に. 文献	6

い. はじめに

ここでは名前のアルファベット表記のデザインを中心にした問題に私見を述べる. 名前のアルファベット表記には, ローマ字綴りをヘボン式風か, 修正ヘボン式か, 通用ヘボン式か, あるいは日本式か, その音韻表記である訓令式にするか, といふ問題は別にしておいても, 名前(いはゆる下の名前)と先にするか, 名字(苗字, 姓)を先にするか, 名字を大文字にするか, しないか, といった問題がある. この問題は端的には名簿や名刺にどう書くかというデザイン上の問題である.

る。 姓が先か名が先か。

最初に「姓が先か名が先か」とふ難解な問題について触れる。日本語では姓名の順だが、英米人は名を先にし、姓を続けて書く。

Ernest Satow

のやうにである。名前の構造が同じヨーロッパ人の名前(ハンガリー人は違うか)は、同様に表記して差し支へなく、彼らもさうしてゐる。

問題は、日本を含めて東洋の多く(漢字文化圏)は姓名の順に名前を表記し、それをローマ字で書く時、どちらを先に書くか二通りあることである。この問題については決着がついてゐない。また、姓のない文化(アラビア人は英米人の姓の位置に父称が来る)もあり、これをどう表記するかもむづかしい問題であるが、ここでは日本に関係する東洋の例のみとりあつかふ。

日本人を含めて漢字文化圏の姓名の構造からすれば、英語での **surname, first name** は形容矛盾の名前である。リテラルに **surname** を解すれば「下の名前」になってしまう。同様に **first name** も「前の名前」だから姓になる。漢字文化圏の姓名の順番を、(甲)英語風に名(下の名前)を先に書いて、名字(姓)を後に書く (**Taqumi TuZino**) か、それとも(乙)日本語の語順で書く (**TuZino Taqumi**) か、どちらかにしなければならない¹。なお、**Taqumi** も **TuZino** も正規のローマ字綴ではないので、これを日本語に含めるかどうかそその疑問がある(日本式ローマ字であれば **Tuzino Takumi** である)。ノーベル物理楽賞の益川氏も **Maskawa** と綴っており、かういふ非正規な綴りは結構多いが日本語ともいいがたいが、かといって英語ともいいがたい²。この問題は今回はとりあつかはない。また、後述するように **TuZino, Taqumi** といふカンマを挟んで一見日本語の語順に従った表記は、**Taqumi TuZino** を本来の順番とした上での倒置表記なので、方針としては(甲)に相当する。

文部省の国語審議会の答申では「日本人の姓名については、ローマ字表記においても「姓一名」の順(例へば **Yamada Haruo**) とすることが望ましい」としてゐる。つまり、乙の方針を推奨しているわけだが、実際には英語文化にしたがって、甲のやうに「名-姓」の順(例へば **Haruo Yamada**) としてゐる人が圧倒的に多い。一方、中国人や韓国人のローマ字表記では、乙の方針で表記されることが多い。たとへば「毛沢東」は英語でも **Mao ZeDong** または **TseTung** と表記し、決して **ZeDong Mao** とか **TseTung Mao** にはならない。

これをどうするかといふ問題に誰もが納得する答へはない(もしさういふものがあれば、とつづくに決着がついてゐる)。が、実際問題の対応としては次のやうなものになる。英語の文脈では英語風(甲)であり、日本文化の文脈では乙となる。つまり文脈依存である。

たとへば英文の名簿で、その人(の属する文化)ごとに順番をつけるといふのは現実的ではない。また、英語論文のタイトルも同様である。甲乙の順番の容認されない(だいたい、編輯規定に書いてあるか編輯委員が認めない)。というのは、どの文化かわからない限り、どちらが名字かわからないからである。その上、全然なじみのない文化圏(日本に比較的したしみがあるタイですら名前の構造は周知されてゐるとはいいいがない)の名前にいたっては想像の外である。漢字文化圏に限れば名前を見て漢字圏だらうといった見当をつけることは可能であるが日本人でも、乙の表記をする人と甲の表記をする人とゐるわけで、さういふのが混在した中で、正確に姓を認

¹Taq-TuZino-umi といった表記もあるかもしれないが、これはもはや姓名の表記ではない。アナログラムと解すべきだらう。

²Taqumi TuZino は日本式をベースにしたギリシャ系ラテン語化風のつもり(なんのこっちゃ)。

定することは不可能といってよい。Sato だから名字だというのは日本人および日本文化に精通した人以外にはできない所業である。しかも、「上村 里(うゑむら さと)」さんとふ人がみた場合、予想に反して Sato は「下の名前」である。日本人だって間違うだらう。また、ジャッキー・チェンを陳 成龍(Chan Cheng-Long)と表記してゐるうちは甲乙どちらでも表記可能だが、Jackie Chan を Chan Jackie と表記するのは相当に違和感がある。中国人であっても、英語論文では英語風に甲の「名-姓」の順番で書いてゐる。

問題の根本にはローマ字には多面性がある。ローマ字には英語化(anglicise)あるいは他のラテン文字使用の言語化(イタリア語化, フランス語化, ドイツ語化等々)の方法の一つとしてのローマ字と、日本語表記としてのローマ字と二種類ある。日本語表記としてのローマ字は乙しかありえない。たとえば、筆者の姓、「辻野」の「野」は野原の野ではなくて(電話で漢字を伝えるときはさう云ふが)、助詞の「の」である。紀貫之を「きのつらゆき」と読むのと同じで、もともとは「の」の字がなく、読むほうが「の」を補ってゐたが、「の」を漢字で表記することがある。たとへば紀氏の中で紀野と「の」を明示する表記もある。これを甲のやうに、「たくみ つじの」「つらゆき きの」といふやうに表記すると日本語として意味を為さない。日本語では普通このような順番で話をしないからである³。

なお、他のラテン文字使用の言語化ではそれぞれのローマ字化(たとえば chi はチとは読めない言語も多い。フラ語はシ、伊語はキ、独語はヒ)があつていいし、それぞれの順番で書けばよい。ハンガリー語は日本語と姓名の順番が同じなので、ハンガリー語中で、あえて逆に書く(甲)こともないだらう。が、読み手がどちらが姓か混乱しないことが条件である。読み手であるハンガリー人が混乱する可能性、書き手であるハンガリー語話者が混乱して表記する可能性、おおよその日本人が自分の姓名を混乱して表記する可能性を考へると、「こっちが姓」と明記しない限り、混乱する可能性が高い。

一方で、「毛沢東」を Mao ZeDong と表記することにも一理ある。固有の文化の文脈で捉へる場合には、たとへ英語の文中であっても、その固有の文化にしたがった表記をするべきだらう。日本の古典文学や歴史を既述した本では、英文であっても、'Kino Turayuki'(日本式表記)といふやうに乙の表記をするべきだらう。さう書き、ご丁寧に「日本語では family name, given name の順になり、Kino が family name だ」と書いてある本も多い。

本人の名乗りとして甲にしても乙にしてもいいが、結局、本人の名乗りがそのまま後で英語化の文脈で使はれることが多いので、後先を考へて名乗る必要がある。英語の文脈では、混乱させないためには、甲の英語風の順番にしておくべきだらう。たとえば、名刺に書く場合、英語で会社名や役職を書いてゐるのなら、甲の英語風にするべきだらう。逆に、日本語ローマ字文の文脈では、乙の日本語の順番にしておくべきだらう。名刺に日本語ローマ字文を書くことはあまりないだらうが振仮名(?)としてローマ字を使う場合は書いてある順番でローマ字を振る必要がある。「辻野 匠」の振仮名(?)として上または横に「Taquumi TuZino」と書いてあることが多いが、これは違和感がある。「辻野」は taquumi に対応してゐるわけではないからだ。話がそれるが地名では「京都市左京区」の上に読みを示す意味でローマ字を書く場合がそれである。「Kyôto-shi Sakyô-ku'(左は修正へボン式。日本式ローマ字による復古假名遣翻字であれば 'KyauTo-si SaKyau-ku')とすべきであつて、'Sakyô-ku, Kyôto-shi' とするべきではない。それは英語化した表記である。乙の精神にもとづいた順番で書いておけば、区が ku, 市が si となることはわかる。中野 孝次を Nakano Kouzi, 野中 英次を Nonaka Eizi と書けば、差分から中が naka, 野が no, 次が zi だとわかる(人にはわかる)。甲はその構造を破壊するので振仮名(?)

³ 「取つてそれを」のやうに倒置は正しい文からの逸脱として例外的に使はれる。

にはできない。

この問題は文脈に照せばある程度方針が立つが落とし穴がある。書いたものが違う文脈で流用して使われることがよくあることだ。漢字の名前は日本あるいは漢字文化圏といふ文脈を背負ってをり転用できないの対して、ラテン文字はどこにでも転用可能である。したがって、文脈外の局面で混乱が生じる。

この問題は、本稿の主題であるデザインについては大きく関与しない。次のパターン例では、甲の書き方について列挙したが、同様のことが乙についても言へる。

は. いろいろなパターン

は. 1 Taqumi TuZino: ベタで表記

基本形と云へる。もっともよく使用されている表記。姓名の判別が難しいが、後述の大文字表記にくらべて語形に特徴があるので、読みやすい。また、語中の大文字で表記する字 (TuZino の Z, DeMarco の M, McArthor の A) や小文字で書くべき語 (von, van, de, ten など) も表記できる。

は. 2 TAQUMI TUZINO: 全部大文字

全部、大文字にする表記がある。これは姓名の判別がむづかしい上に、平板な印象がある。次のやう⁴に大文字にしにくい名前もある。

McArthor, von Neuman, van Beethoven, de Gaulle, DeMarco, ten Bricks
MCARTHOR VON NEUMAN VAN BEETHOVEN DE GAULLE DEMARCO TEN BRICKS

かういふものまで大文字にすると、名前の構造を知らない人は正確に復元できない。たとえば DEMARCO の場合、「もともと de は前置詞で、それが Marco といふクリスチャンネームと強く結合したものである」といふことを知らない限り、DEMARCO を大文字小文字の表記に変換する場合に、単に Demarco となってしまう可能性が高い。また、前置詞は小文字にするといふことのみを知ってある場合は、deMarco という綴りに間違って復元してしまう可能性もある。やっかりな事にかういふ綴りが正式な人もある。筆者は藝名的に TuZino と表記しているが、TUZINO という表記をみて TuZino に復元することは限りなく困難である。

は. 3 Taqumi TUZINO: 姓を大文字

姓名の区別がつくことが利点である。ただし、大文字=姓といふルールを知ってある人に限る。知らない人も多い。また、上で述べたように姓の全部を大文字で表記すると混乱する名前もある。

⁴これらは、それぞれの言語での前置詞を含むもので、独立した前置詞は大文字にしないが、連結した前置詞は大文字にし、かつ、語幹にあたる形態素も大文字から表記するという一般則が西欧にはある。

は. 4 Tuzino, Taqumi: 姓名を転置

名簿は姓で探すことが多いので、姓が最初に来るほうが適当。小文字は上に出る線や下に出る線があり特徴が多い(表情が豊かな)ので、姓を小文字で書いておけば目で探しやすい。

自己の名乗りとしては、姓を先に名乗るのは英語話者としては違和感があるかもしれない。

は. 5 TUZINO, Taqumi: 姓を大文字にして転置

大文字が姓を意味することが周知されてゐる必要があるのは前述の通り。名簿に適した順番であるのも既述。姓を大文字にすると平板になって、読みにくいので、目で探すには不適當。

は. 6 Taqumi TUZINO: 姓をスモールキャピタルにする(一律)

大文字だと(たとへ姓だけでも)平板な印象があるが、スモールキャピタルにすれば、印象を強めることができる。姓の大文字化同様、スモールキャピタルが姓を示すことが周知されてゐなければならない。

は. 7 Taqumi TUZINO: 姓をスモールキャピタルに(もとの大文字を忠実に残す)

上のスモールキャピタルは、「とにかく最初の一字をキャピタル、残りをスモールキャピタル」とふルールだが、上で見たやうに、大文字小文字混在の姓も多い。それらについて、大文字表記をそのまま大文字とし、小文字表記をスモールキャピタルにしたものがこれである。

Karl VON NEUMAN, Charls DE GAULLE, Tom DEMARCO

は. 8 TUZINO, Taqumi: スモールキャピタルにして転置(一律)

名簿で探すのに適した順番。スモールキャップスが特徴的で印象強い。ただ、大文字よりはまじだが、平板な印象は免れ得ない。

は. 9 TUZINO, Taqumi: スモールキャピタルにして転置(忠実)

名簿で探すのに適した順番。しかも、もとの小文字/大文字の差異が保存されてゐるので、表情が豊か。

に. 文献

- 辻野 匠 (2007) アルファベットと発音 (2007-12-26 版) 117 頁. オンラインドキュメント.
- TuZino, T (2007) Transcription and Transliteration for the Cyrillic. 1p. online document.
- 辻野 匠 (2007) 勝手なギリシャ文字翻字. 4 頁. オンラインドキュメント.
- 辻野 匠 (2008) 日本式ローマ字翻字の推薦. 12 頁. オンラインドキュメント.
- 辻野 匠 (2009) 通用ヘボン式の概観. 16 頁. オンラインドキュメント.